Education first !!



久留米大学医学部 医学教育研究センター

Center for the Study of Medical Education (CSME)

久留米大学医学部医学教育研究センター ニュースレター 第19号

2017年2月発行

第111回医師国家試験!

111回目の医師国家試験、記念すべきぞろ目です。天気予報によれば、国試の前日には大雪となるようですが、受験生の皆さんの気合と後輩たちの応援の熱気で雪が地上に降りる前に溶かしてしまってください。久留米大学関係者一同(学生も教員も職員も)が応援しております。医師国家試験が最終のゴールではなく、むしろ医師としてのスタートラインですが、ひとつの区切りということであれば学生諸君にとっての最も大きな中継点ということになると思います。受験前日は緊張で眠れない事もあるでしょうが、慌てず、焦らず、睡眠をしっかりとって、万全の態勢でこの大きな試練を乗り越えてください。今は大きく立ちはだかる壁ですが、超えて振り返って見れば小さな壁だったと先輩方が申しておりました。超えられる壁です。大丈夫です!!

医学教育研究センターを楽しむためのヒント

医学教育研究センターについて知ろう! (その17)

Q: 神代、安達、柏木をある規則で並べてください。

A: 安達、神代、柏木の順になります。

Q: その規則とは何ですか?

A: 散髪に行く頻度で、安達(1か月)、神代(2か月)、柏木(3か月)です。

医学教育研究センターは教育一号館の6階にあります(旧医学教育学)。大学生活に関すること、学業に関すること、留学やボランティア、部活に関すること。大学に関する悩みがあれば、どんなことでも相談に乗ります。いつでもお越しください。「手薬煉を引いて」お待ちしています。

- スタッフ一同



今号の特集

- 今月の教員の声
- 今月の医学時事

今月の教員の声

「第43回 医学教育者のためのワークショップ (富士研WS) に参加 してし

久留米大学医学部医学教育研究センター 柏木 孝仁



会場の入り口(様々な研修や会議に使用されている)

平成28年12月4日から8日ま での5日間、神奈川県にある湘 南国際村にて行われた第43回 医学教育者のためのワークショッ プ(通称、富士研WS) に参加 してきた。このワークショップは各医 学部や病院施設で行われている 医学教育ワークショップの総本山 (医学教育ワークショップの頂 点)とも言えるワークショップで、

参加者数が限定されており、参加希望者が多く、参加を希望しても叶わないことがあ る。私も前回は落選し、今回は参加できた。参加者は40名で、大学から24名、市中 病院から14名、歯学、薬学の教育学会からも代表がぞれぞれ1名参加していた。会 期中の5日間は早朝から夜(毎日深夜までディスカッション)まで分刻みのスケジュー ルで講習や講演がみっちりと組まれ、参加者のモチベーションの高さも相まって非常に活 発な活動が行われた。参加中には感じなかったが相当な疲労が溜まっていたようで帰 宅後に口唇ヘルペスを発症した。実は、他の参加者にも口唇ヘルペスが出たそうで、本 人から「ウイルスと言えば柏木さんだと思い、メールしました。」との報告を受けた(ウイル スと言えば柏木と覚えていただけていたのはありがたいことだ)。それほど大変なワーク ショップであった。

さて、このワークショップの主題は「アウトカム基盤型カリキュラムの考え方」である。GIO やSBOと言ったいわゆる教育の目標をもとに作成されているこれまでのカリキュラムを、卒 業時のコンピテンシー(修了時に獲得しているべき能力)をもとにカリキュラムを編成し 評価をするように変えてこうということである。また、その過程を研修という形で実践してき た。例えば、現在のコア・カリキュラムを見るとGIO、SBO主体の到達目標が示されては いるが、コア・カリキュラムの項目を習得した学生がコンピテンシーを有しているという保証 はない。これに対してアウトカム基盤型では、必要な能力を備えている医療者を「確実



湘南国際村の会議場(小高い丘の上にあり360℃パノラマで展望がとても良い)

今月の医学時事

昨年の交通事故死亡者が67年ぶりに3 千人台になった。年々、交通事故による死 亡者数は減り続けており、政府は2020年 には2500人以下にすることを目指してい る。

詳しくは巻内記事にて

医学教育研究センターのニュース レターに記事を投稿したいと言う方 は、是非ご連絡をください。教員、 学生問いません。教育に関する事、 学校生活に関すること、ボランティア 活動に関する事、大学に対する要 望など、受け付けております。

医学教育研究センター

に育成」しなければならず、教育機関はプログラム終了時にその「責任を持つ」という事になる。当然そこには教育機関がすべき社会に対する説明責任も含まれる。社会が要求する専門職(医師)に対する人材育成がしっかりとできているという説明責任である。コア・カリキュラムは近々大幅に改定されるがこのアウトカム基盤型のコンピテンシーが取り入れられていると言う事である。

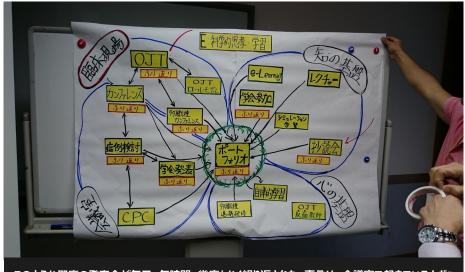
では、具体的にコンピテンシーをどのように設定し、また評価すべきであるかは、研修を経ても非常に難しい問題だと感じた。まずコンピテンシーは観察可能な能力であり、測定できるものである必要がある(そこには評価があるので当然と言えば当然だが)。またその設定の程度であるが、例として専門職の技能習得の段階で説明があった。専門職には5つの段階がある。つまり、1.Novice、2.Beginner、3.Competent、4.Proficient、5.Expert、の5段階で、この3段階目(Competent:実践の場で応用できる知識と社会的信頼)がコンピテンシーの設定レベルという事



必然か偶然か、会場裏の展望広場に は三浦半島のマイルストーンが置かれ ていた。この輪っかを通して富士山を 撮っておけばと今更に悔やんでいる。

であった。コンピテンシーは「確実に習得すべき能力」なので、設定が高すぎると達成が困難になる。低すぎると社会の要求に答えられないとなる。社会の要求する「一人前の医師(社会からの信頼)」がどこにあるのかがコンピテンシーの設定に重要である。またこの設定は、卒前(1~6年)、卒後(研修医、専門医)などの段階によって異なるのは当然だか一貫性がある必要がある。この一貫性についてはマイルストーンという形での説明と研修も行われた。

研修を通じて感じたことは、これまでのGIO、SBOを基盤としたカリキュラムとは異なり、今後のアウトカム基盤型カリキュラムでは卒業生に対する責任を各教育機関が持つ必要があるということである。社会に送りだして終わりではなく、卒業生に十分なスキルがなく何かしらの問題を起こした、または社会の要求を満たしていなかった場合には、その責任はそれぞれの教育機関が持つべきだという厳しい意見も討論の際にはフロア(主催者からではない)から出たほどだ。根底にあるのは、大学は社会から評価されているのだということである。社会の求める一人前の医師(ニーズは地域ごとに異なるはずで決して画一的であるはずがない=コンピテンシーは各大学で異なるとのことだった)とは何なのか具体的に調査して、そのような人材を送り出すために必要なカリキュラムを考えて行く必要がある。



このような即席の発表会が毎日、毎時間、幾度となく繰り返された。事件は、会議室で起きているんぢゃない!臨床現場で起きているんだ!という若干古いネタで掴みは完璧だった。

今月の医学時事

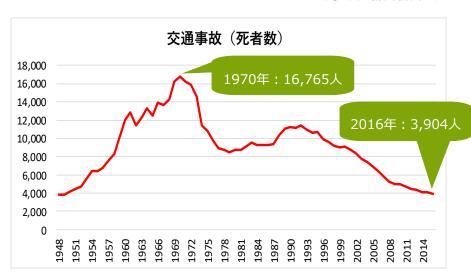
昨年の交通事故死、67年ぶり3千人台 高齢者が半数超

昨年1年間の交通事故による死者は全国で3,904人であり、前年より213人(5%)少なく、1949年以来67年ぶりに4千人を下回った。警察庁の担当者は「啓発活動や車の性能向上、信号機や道路の改良など総合的な安全対策が進んできた結果 とみている。

同庁によると、交通事故による死者のうち65歳以上の高齢者は2,138人で55%を占め、記録が残る1967年以降最も割合が高かった。事故時の状況別に見ると、歩行中と乗車中のケースが多く、昨年11月末現在でそれぞれ46%と30%であった。

交通事故死者は、記録が残る1948年が3,848人、1949年が3,790人だったが、1950年に4千人を超え、1970年に最高の1万6,765人に達した。1996年に1万人を割って減少傾向が続いており、政府は2020年度までに2,500人以下にする目標を掲げている。

1月4日 朝日新聞より



医学教育研究センターは最先端の技術で学生と教員を繋げます。

編集スタッフより

こんにちは。編集担当の柏木です。第19号です。今月は、1月、2月の合併号となりました。そして記事のほとんどを柏木が占めるという、柏木特集となりましたことを、ここに深くお詫びいたします。今後、二度とこのようなことがありましても、温かい目で見過ごしてください。そして、皆様の記事をお待ちしております。

朝日新聞DIGITAL

http://www.asahi.com/ articles/photo/ AS20170104000947.ht ml

全日本安全協会

http://www.jtsa.or.jp/topics/T-254.html

警視庁

https:// www.npa.go.jp/toukei/ index.htm#koutsuu



今月のニャンコ(猫巻貝:2個)

お問い合わせ先

当ニュースレターついてお気軽にお問い合わせください。 記事も募集しています。

久留米大学医学部 医学教育研究センター 編集担当:柏木 孝仁 〒830-0011 福岡県 久留米市旭町67 TEL: 0942-31-7764 FAX: 0942-31-7765 https://csme.kurume-u.ac.jp E-MAIL: csme@med.kurume-u.ac.jp